

# 消防庁舎整備基準

平成 30 年 11 月

消防本部 総務課

## 1 目的

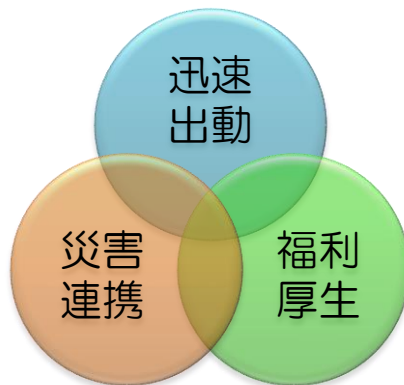
この基準は、消防庁舎の新築及び大規模改修における庁舎整備の統一事項を定めるとともに、効率的な設計業務を実施するため、必要な事項を定めるものである。

## 2 消防庁舎の基本方針

地域防災の要となる施設を構築するため、次の項目を基本方針とする。

- (1) 様々な災害に迅速に出動できる体制
  - ・災害対策庁舎であることから、耐震上及び防火上安全な建築構造
  - ・各室の機能的な配置による、出動動線の最短化
- (2) 災害対応拠点機能の充実
  - ・災害拠点施設として、消防団等の関係機関と容易に連携が可能
  - ・災害時の前線基地的機能付加
- (3) 職員の福利厚生と業務継続対策
  - ・女性職員が、安心して勤務することができる環境整備
  - ・24時間の勤務体制であることから、職員の業務面と生活面の両方に配慮
  - ・職員間の感染症の拡大予防対策

【庁舎建設方針イメージ】



## 3 敷地条件

- (1) 大型の消防車両がスムーズに出入りできる幅員の道路に面した敷地
- (2) 災害等に備え、2方向から車両が出入りできる敷地
- (3) 降雪期の出動に対応するため、車庫前に消雪装置を設ける。
- (4) 車庫前には、消防車両や消火用ホースが洗浄できるスペースを設ける。
- (5) 災害招集に応じた職員の車両が駐車できる広さを有した敷地

#### 4 建物の構造及び規模

- (1) 鉄筋コンクリート造若しくは鉄骨造とする。
- (2) 配置人員及び配置車両に応じて決定し、また、管轄地域の特性に応じて面積を増減することとし、以下の庁舎を基準とする。

##### 【消防庁舎標準規模】

配置人員（人）	配置車両（台）	基準面積（㎡）	既存庁舎名
1 2	3 ～ 4	500～700	中之島出張所（564 ㎡）
2 2	4 ～ 5	700～1,000	寺泊出張所（999 ㎡）
4 0	5 ～	1,000～	与板消防署（1,032 ㎡）

#### 5 消防庁舎標準仕様

- (1) 大規模地震や水害など、災害時においても継続的に庁舎機能を維持できること。
- (2) 庁舎内のレイアウトは、出動動線を考慮すること。
- (3) 女性職員が勤務することに配慮した仕様とすること。
- (4) 窓等の開口部から指令放送などの放送が、できる限り屋外へ漏れない措置を講ずること。
- (5) 消火用ホース内の水切りのため、消火用ホースを吊り下げる装置を設けること。

#### 6 標準設置室等

消防庁舎に標準で設置する居室の一覧は以下のとおり

No.	居室名	居室概要
1	消防車車庫	消防車、救急車の格納及び点検整備スペース
2	事務室	執務及び待機スペース
3	書庫	建築物等の図面や報告書などの簿冊収納
4	仮眠室	個室で整備、交替制勤務者2名で1室使用
5	乾燥室	常備・非常備消火ホース及び防火衣乾燥用
6	消防団会議室	消防団会議、研修及び市民講習
7	防火衣室	災害時出動準備場所
8	救急準備室	救急資機材の洗浄、消毒等及び救急資機材保管
9	資機材倉庫	車両装備品、消防活動用資機材収納
10	シャワー室	個室で整備
11	食堂・厚生室	職員休憩用、応援職員の待機スペース

\*設置室は、建物規模及び管轄地域の状況に応じて決定する。

各室の詳細は、以下のとおりとする。

#### (1) 消防車車庫

消防車両を格納するほか、車両の点検・整備などを行うことができる機能を有し、次の条件を満たすこと。

ア 配置車両間及び車両と内壁間には、車両乗車時の妨げにならない距離を確保する。

イ 車庫の天井高は、積載はしごが昇降させることができる高さを確保する。

ウ 車両後方に、ホースカーの昇降及びストレッチャーの展開スペースを確保する。



消防車車庫内の間隔

#### (2) 事務室

執務スペース及び待機スペースとして、開放的な間取りや採光に配慮した機能を有し、次の条件を満たすこと。

ア 毎日勤務者及び交替制勤務者が執務する席数を有する広さとする。

イ 出勤時を考慮したデスクレイアウトとする。

#### (3) 書庫

防火対象物ファイル及び各種簿冊が収納できる機能を有し、次の条件を満たすこと。

ア 事務室との機能的な動線を確保する。

イ 収納容量には余裕を持たせるとともに、階段下等の有効なスペースを活用する。

#### (4) 仮眠室

出勤待機している職員が、夜間休養するための仮眠スペースとし、次の条件を満たすこと。

ア インフルエンザ等の集団感染予防や24時間の共同生活において、仮眠時のプライバシーを確保するため、「個室」とする。

(交替制勤務者2名で一室を使用)

イ 更衣室を兼ねることとし、出入口戸に施錠装置を設ける。

ウ 男女の部屋を離すなど、女性職員に配慮した仮眠室の配置とする。



個室仮眠室

#### (5) 乾燥室

冬期間においても消火用ホース及び防火衣などを乾燥させることができる機能を有し、次の条件を満たすこと。

ア 室内に乾燥用の暖房設備を設ける。

イ 水に濡れた消火用ホース等を乾燥させるため、棚や吊りパイプ等を設ける。

ウ 床面には、排水機能を持たせる。



乾燥室

#### (6) 消防団会議室

平時は、消防団員等の会議・研修室、災害時には災害対策会議室等として使用できる機能を有し、次の条件を満たすこと。

ア 消防団管轄方面隊の幹部団員の会議が行える広さとする。

イ 床は、救急講習に対応するため、カーペット敷きとする。



消防団会議室



救急講習イメージ

#### (7) 防火衣室

災害時に着用する防火衣等の個人装備品を保管する機能を有し、次の条件を満たすこと。

ア スペースを有効活用するため、回転式の防火衣ロッカー（2名で1台使用）を設置する。

イ 防火衣を着装する際、内壁等が邪魔にならない程度の広さを確保する。

ウ 床は、滑りにくい措置を施すとともに、灰や泥などに汚染されても容易に清掃ができる仕様とする。



回転式防火衣ロッカー

(8) 救急準備室

救急資機材の洗浄、消毒や薬剤などの医薬品を保管する機能を有し、次の条件を満たすこと。

ア 救急資機材洗浄のため、洗浄用シンク、作業台及び汚物用スロップシンクを設置する。

イ ストレッチャーの洗浄のため、洗浄スペース及び洗浄用シャワーを設置する。

ウ 床は、汚物、薬品などの汚染に対しても容易に洗浄できる仕様とする。

(9) 資機材倉庫

車両装備品や消防活動用資機材等を保管する機能を有すること。

ア 車庫に面して設置する。

イ 大型車のタイヤや重量物が収納できる広さとする。

(10) シャワー室

職員が、災害出動や訓練において汚れた体を清潔に保つための機能を有すること。

ア プライバシーに配慮した個室とする。

イ 脱衣室には施錠装置を設ける。



個室シャワー室

(11) 食堂・厚生室

職員が食事をとるとともに、休憩できるスペースを有すること。

## 7 その他の施設等

(1) ヘリポート

市内基幹病院から相当の距離がある庁舎については、ドクターヘリ等が離着陸できるヘリポートを敷地内又は直近に確保すること。

(2) 訓練施設

各地域の拠点となる消防署には、隊員の災害活動能力向上のため、基本的な訓練から実践的な訓練までが実施できる訓練塔等の訓練施設を設置すること。



ドクターヘリ



訓練施設